

本県の子どもたちの学力向上の取り組み

～平成27年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて～

■ 調査結果

○小学校 平均正答率（問）

	国語 A (14問)	国語 B (9問)	算数 A (16問)	算数 B (13問)	理科 (24問)
福井県	73.8	72.1	79.2	50.0	66.8
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8

○中学校 平均正答率（問）

	国語 A (33問)	国語 B (9問)	数学 A (36問)	数学 B (15問)	理科 (25問)
福井県	79.5	69.8	71.1	47.7	61.3
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

■ 課題

- ・年々、全国平均との正答率の差は縮小
- ・複数の資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを具体的に書くこと（国語）
- ・結果が分かっている状態で、結果に至るまでの過程を順序立てて説明すること
（算数・数学）
- ・実験の予想や仮説を立てたり、条件を考えて実験方法を計画したりすること
（理科）
- ・不読率は改善されつつあるが、読書好きの児童生徒の割合が低いこと

■ 対策

- ・課題克服のための指導方法を明確にした「指導事例集」を9月に作成
授業改善に活用
- ・正答率の低かった問題の類題を5～10題作成。学校での指導に活用
- ・学力調査の課題を12月実施の県学力調査（SASA）の問題に反映

県立高志中学校の教育について

平成 27 年 4 月に、県内公立初の併設型中高一貫校として開校

◇高志中学校の教育目標

- ・ 地域社会、国際社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性の育成
- ・ ふるさと福井への深い知識と大きな誇りの涵養
- ・ 世界に通用する語学力と国際感覚の育成

◇独自の教育カリキュラム

- ・ 週あたりの授業時間が通常の中学校より 1, 2 年で 3 時間、3 年で 4 時間多く、中学校 3 年間で 350 時間多く授業を設定
- ・ 週 4 時間の英語授業に加え、学校設定教科「英語表現基礎」（週 1 時間）では、外国人講師が単独でオールイングリッシュの授業を実施
- ・ 土曜日を活用して、スーパーティーチャー（県外の中高一貫校で指導実績のある先生）による授業を実施

※ 4月から実施した授業

滝口隆幸氏（元 東京都立小石川中等教育学校 数学科教諭）

6 月 13 日「パスカルの三角形の不思議」

7 月 4 日「余りを調べる～合同式を覚えよう～」

福井県立高等学校の難関大学合格者数の推移

平成27年9月4日
福井県教育庁

入試年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
難関大学合計	225 (179)	208 (153)	216 (178)	166 (119)	175 (126)	164 (120)	165 (124)	173 (136)
県立高校 卒業予定者に 対する難関国公立 大学の合格率	3.67 (2.91)	3.52 (2.59)	3.75 (3.09)	2.90 (2.08)	3.07 (2.21)	2.78 (2.03)	2.97 (2.23)	3.09 (2.43)
国公立大合計	1,685 (1,512)	1,685 (1,499)	1,580 (1,381)	1,507 (1,293)	1,538 (1,340)	1,404 (1,223)	1,458 (1,252)	1,544 (1,362)

※ 難関大学（東京、京都、北海道、東北、東京工業、一橋、名古屋、大阪、神戸、九州）
（ ）は現役（内数）

英語教育について

1 中学・高校英語教育

(1) 国の動き

中学校の英語4技能を測る「全国的な学力調査」実施（平成31年度～）
大学入試にスピーキングテストの導入を検討（平成32年度～）

(2) ALT配置状況

中学校 57人 高校 35人 計92人（平成27年度）
ALT配置数は、全国トップクラス

(3) 教員の英語力

英検準1級以上等を取得した教員数の割合

中学校 49.4%（全国1位） 高校 86.3%（全国1位）

（文部科学省「平成26年度英語教育実施状況調査」）

(4) 生徒の英語力

中学校3年生 英検3級程度以上 38%（国の目標：平成29年度 50%）

高校生3年生 英検準2級程度以上 35%（国の目標：平成29年度 50%）

（文部科学省「生徒の英語力向上推進プラン」）

(5) 教員の指導力向上のための取組み

外部検定試験の受検促進、「話す力」の評価についての研修実施（平成27年度）

2 小学校英語教育

(1) 英語教科化に向けた国の動き

	現在	平成32年度
小学校3、4年生	—	外国語活動 (週1時間)
小学校5、6年生	外国語活動 (週1時間)	英語 (週2時間)

（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程企画特別部会）

(2) 小学校教員の状況

小学校教員2310名 うち英語教員免許を有する者 167名

（平成27年5月現在）

(3) 教員の指導力向上のための取組み

大学から講師を招き、小学校の中核教員に対する研修実施（平成27年度）

ふるさと教育の主な取組について

【目的】

ふるさと福井の自然・歴史・産業を学ぶとともに、福井の先人が試練や逆境を乗り越え、どのように努力してきたのかを学習することで、ふるさにと誇りを持ち、希望を持って様々な課題に挑戦する子どもたちを育成する。

1 福井の先人から学ぶ

○福井県版「心のノート」(小学生)

道徳の時間を中心に、橋本左内、橘曙覧、由利公正など13人の生き方を学ぶ。

○希望学教材「ふくい希望」(中学生)

日下部太郎、杉原千畝、藤野巖九郎など7人の生き方を学ぶ。

○指導資料集「由利公正と五箇条の御誓文」(小・中学生)

小学校社会6年、中学校社会〔歴史〕2年での学習を増やして充実させる。

○「ふるさとの先人100人」(中・高校生) 平成28年度より各学校に配布 授業や朝読書の時間等に読んで、先人の生き方を学ぶ。

2 福井の産業・歴史等を学習

○希望学教材「ふくい希望」(中学生) 平成27年度より中学校に配布

「羽二重生産がもたらした希望～繊維王国福井の形成と発展～」

「アジアに向かう『福井の恐竜』」 など7地域の挑戦の物語を学ぶ。

3 ふるさとの企業を知る

○『実は福井』の技」(中・高校生)

職業調べ、職場体験活動等のキャリア教育で、世界に誇る福井の技術を学ぶ。

4 体験的な活動

らっきょう切り(福井市棗小中)、北潟湖クリーン大作戦(あわら市北潟小)、
若狭塗箸を修学旅行先でPR(小浜市西津小)

など地域に根ざした活動を多数実施

【今後の方向性】

「地域や社会をよくするために何をすべきか」を考える児童・生徒の割合が低いことから、地域をよくするための主体的な活動を地域の人々とともに企画していくことが重要。そのためには、社会貢献に熱心な地域のコミュニティーの核となる人材を育成していくことも必要。

教育研究所の機能強化について

教育研究所の概要

教育に関する研究、研修、相談を行う組織（所属職員 43名）

・研修受講者数 H26 8,031名（H25 7,444名）

・主な研究

学力調査の問題作成や分析方法の開発

小中高での英語の指導・評価法の開発

・来所相談人数 のべ人数 1,224名、実人数 134名

（福井の教育の特長）

・小中学校の児童・生徒の学力・体力が全国トップクラス

・白川文字学、英語教材等の福井独自の教育 等

※県外からの視察者数 H26 2,254名（H25 1,576名）

○「福井の教育」の発信

県内外の教育関係者等に福井の高い学力や、独自の教育、新たな課題への対応などをわかりやすく説明する機能が必要

○新たな教育課題への対応

- ・課題解決力や発表力を高める指導法の研究
- ・大学入試問題、進学支援、制度改革等への対応
- ・白川文字学やふるさと教育などの福井独自の教育の推進
- ・ICTを活用した授業や研修の推進

○外部の専門家等との連携

教育課題の研究においては、大学研究者や退職教員などの知見や協力を得て進めることが重要